

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Cyan 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Green 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Yellow 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Red 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Magenta 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
White 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
3/Color 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Black 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

續隱玖菟岐集

全

ル 4
3505

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
TEJIMA JAPAN

門 3
號 1702
卷

門 4
號 3505
卷

明 治 二 年 己 巳 中 復 新 鑄

官 許

不 許 翻 刻

赤 報 忠 士 東 山 墓 墳

續 隱 玖 菟 岐 集

東 福 寺 山 戰 死 由 來 記

明 治 三 十 八 年 八 月 八 日

山 田 市 郎

氏 著

京 師 書 林

菊 秀 軒 發 行

續 隱 玖 菟 岐 集 序

大 御 國 の 中 為 小 忠 を 盡 し 身 命 を 輕 く 有 志 士 の 忠 義 成 祭 祀 せ ば 其 の 功 一 記

忠 令 を 賜 ふ 事 列 國 の 殿 有 志 の 着 郵 よ 事 進 神 靈 と 祭 祀 一 終 不 令 志 氣 山 上 神 祀 義 義 一 一

門 5
號 1702
卷

山 田 市 郎 印

大洲國の神玉なる壯麗な御玉
輝く如く玉繩寺山乃神宮御功の
由來招魂場小舎一々先の御功
荒涼桑下吹く強風御功御功
御一々其功績を御功御功御功
御功御功御功御功御功御功

明治二十七年
己卯夏

東山雜家主人
高野謙

平野次郎大中臣國臣真蹟縮書

天津の勢

玉書

婦汗也 銜 通

龍乃白尔

方家法系勢

汁 波

安らるる 止る者 於 志 不

筑前招魂之場圖



辞世

大中臣國臣

龍鉄虎口奇斯身
半世功名一夢中
他日九原埋骨處
刑餘誰又認孤忠

吉田十藏良秀

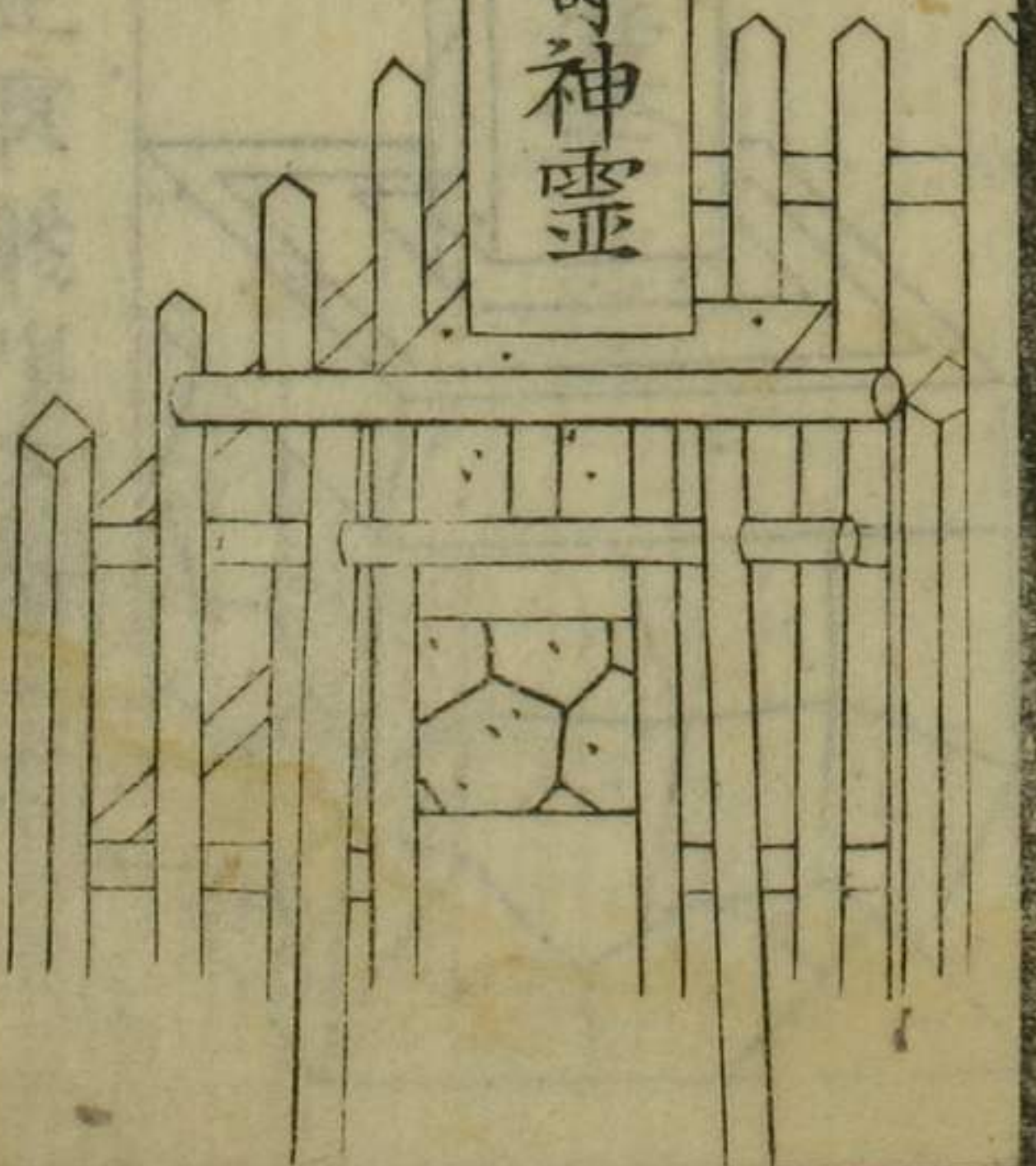
ハ情神々々ありきとおかしくな
うらまのきりしをひらくや

中村恒次郎無可

かひよよまほほうらまのきりしをひらくや
かひよよまほほうらまのきりしをひらくや

於羽州平鹿郡角間川戰死
享年二十二

澤殿臣藤原整崎大藏德壽神靈



石碣記

明治元戊辰七月十九日

奉命于羽州賊平焉

欲功而到于

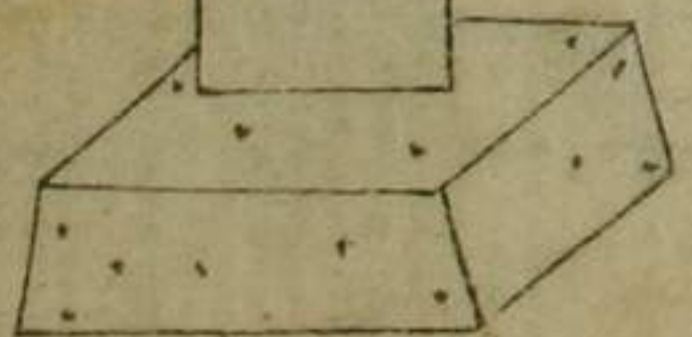
京師病死日己正月

廿二日葬於靈山

齡三十有二

長崎振遠隊

坪田清三郎之墓



元郡山藩

柳田直藏之墓

川瀬中勘二 郎信茶之墓

川瀬鎌塚 糸吉正德之墓

川瀬佐古 式五郎維則之墓

本林寺因州府君之墓

石碣記

慶應四年正月三日賊兵謀狂

闕乃

勅薩長及土藩出兵討賊

後久徒隊長吉松連之助

賈發翼日晨與賊戰于

伏見驛中銃丸不屈而賊

遂賊敗後患其傷以二月十日歿

年三十八

土藩筒井芳五郎茂之墓

慶應四戊辰八月十日於
奥州宇田郡菅谷口戰死年四十一

元水口藩

七番隊 徵兵 大監察西本祐準方則墳

同年八月七日同國大坪村戰死年十八

元加納人

七番隊 徵兵 川田敬藏義信墳

同年八月九日於同國日尻口戰死年三十一

元龜山藩

七番隊 徵兵 松山豊次郎英敏墳

同年八月十日於同國菅谷口戰死年二十九

元尾州人

七番隊 徵兵 藤井主税高敏墳

日前

元大阪人

七番隊 徵兵 山内勝三郎重信墳

年十七

日前

元岩手人

七番隊 徵兵 水野定吉友重墳

年三十二

日前

元濃州人

七番隊 徵兵 家村年三郎兼貞墳

重復同十四日死年三十四

日前

元岩手人

七番隊 徵兵 中川源八郎兼光墳

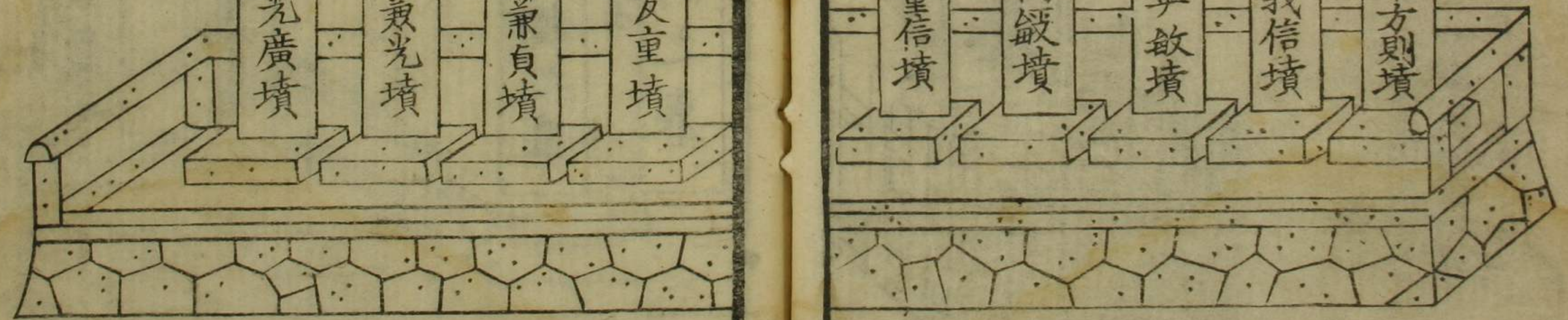
重復同廿五日死年四十九

日前

元尾州人

七番隊 徵兵 伊藤半七郎光廣墳

重復同廿九日死年三十三



慶應四戊辰二月三日豊後國於鶴寺死

肥後 黒瀬市郎助美之招魂碣

元治二乙丑八月長門國於壇浦死

肥後 安田喜助保臣招魂之碣

水口浪士

大丈夫當期此時 豊田美稻

千秋正義在攘夷

勤王克業君若問

唯說楠公是我師

元治元年甲子七月十九日戰死 作列士并郷士

豊田美稻之墓

安藤鐵馬之墓

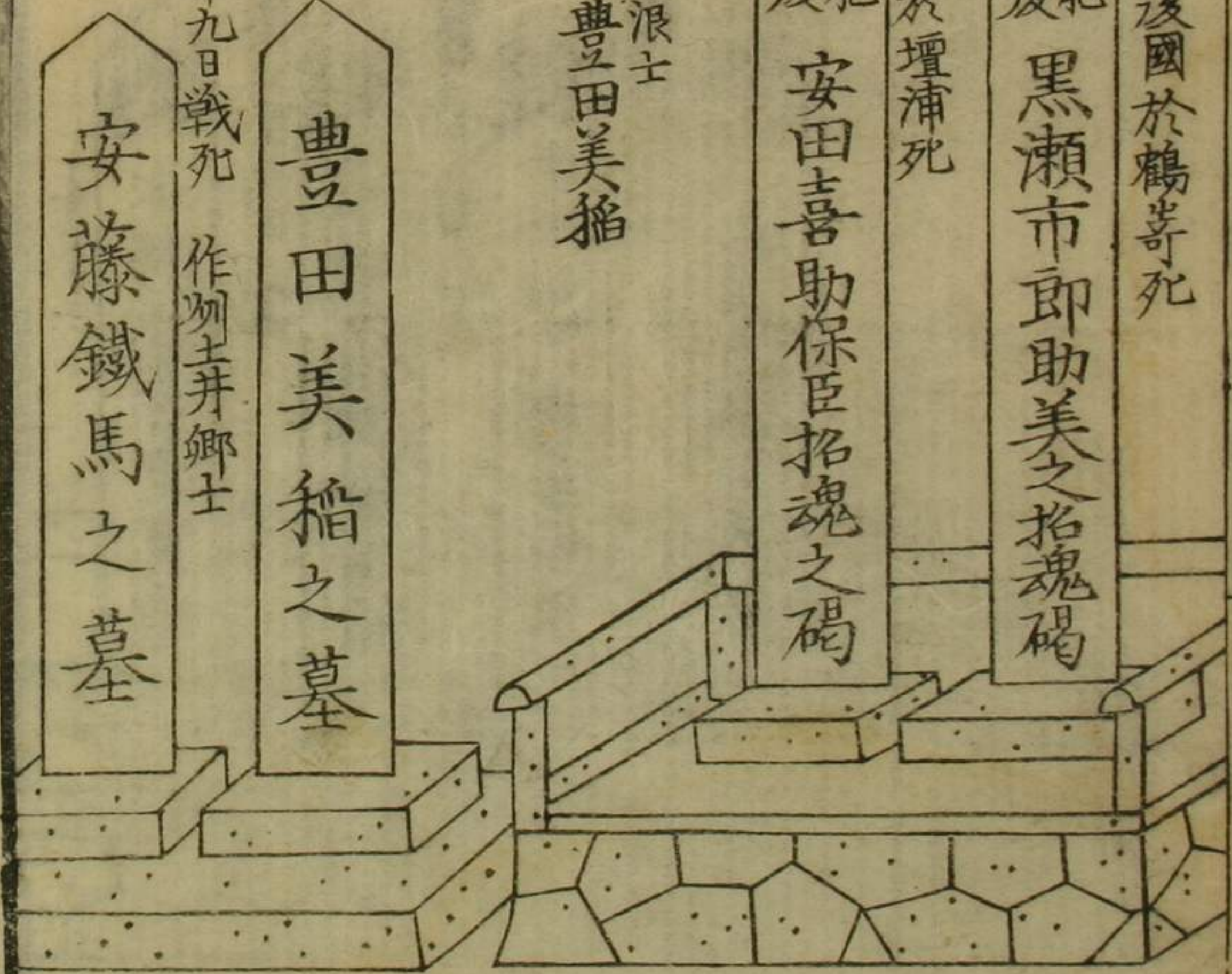
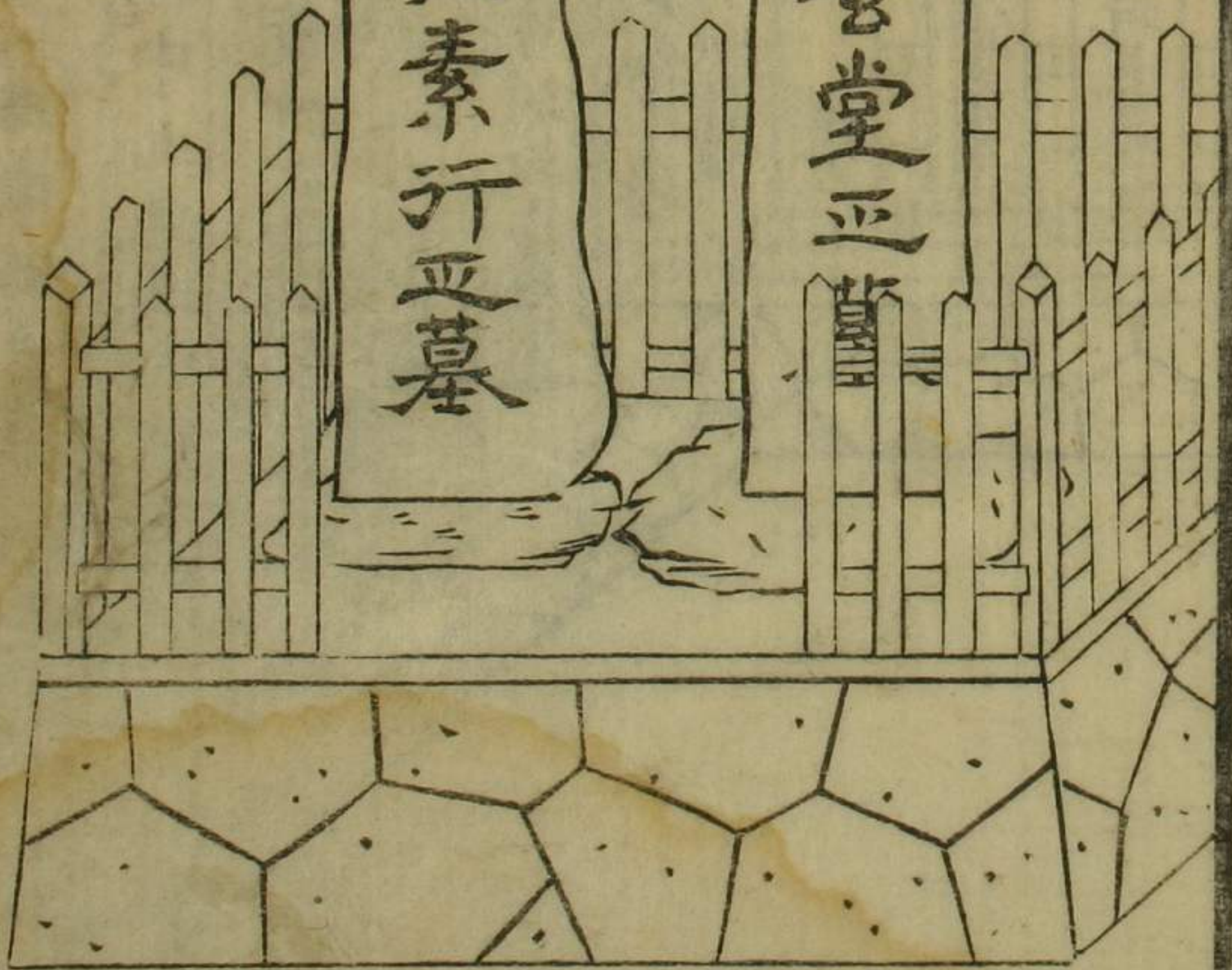
慶應二丙寅年

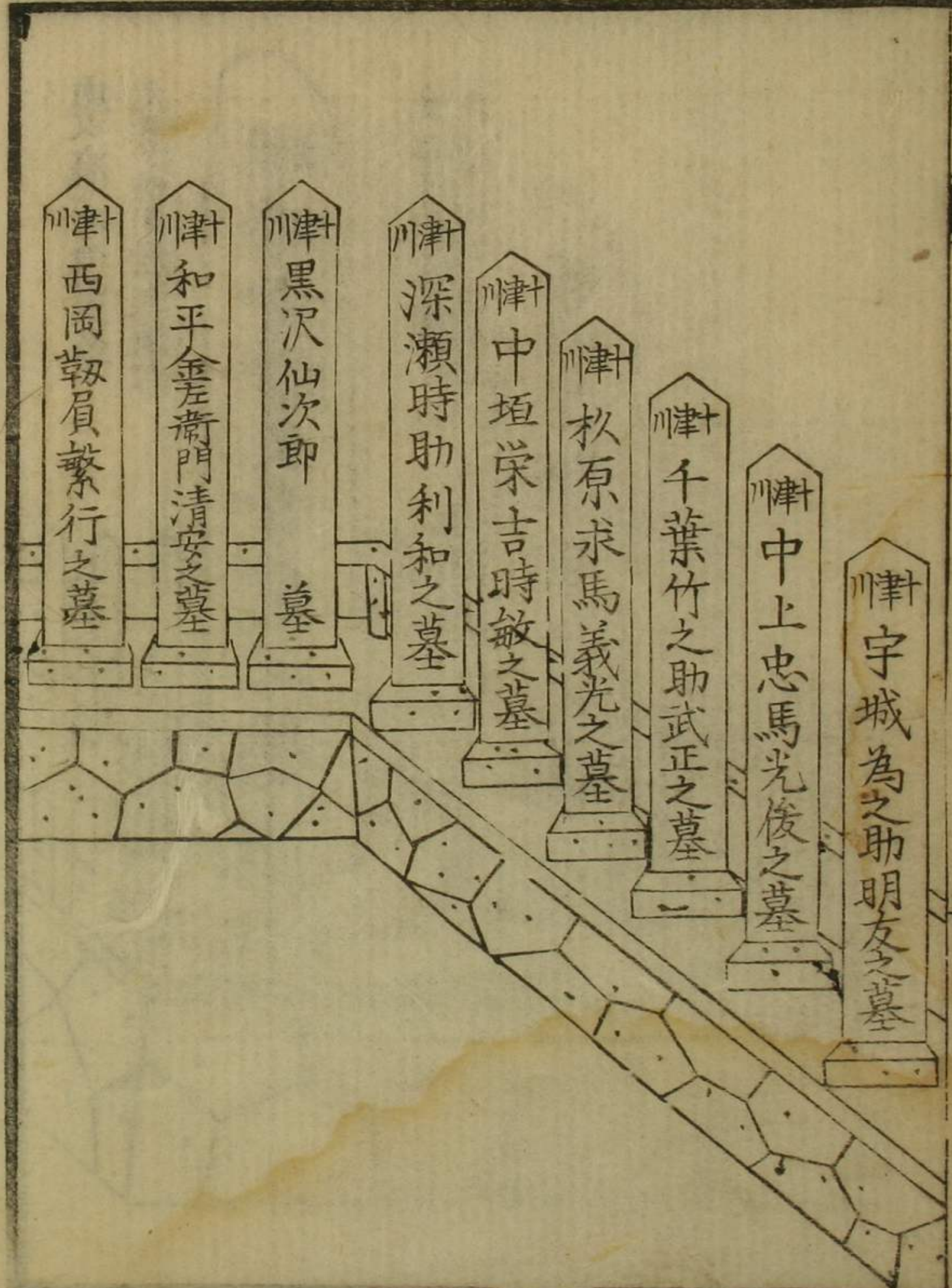
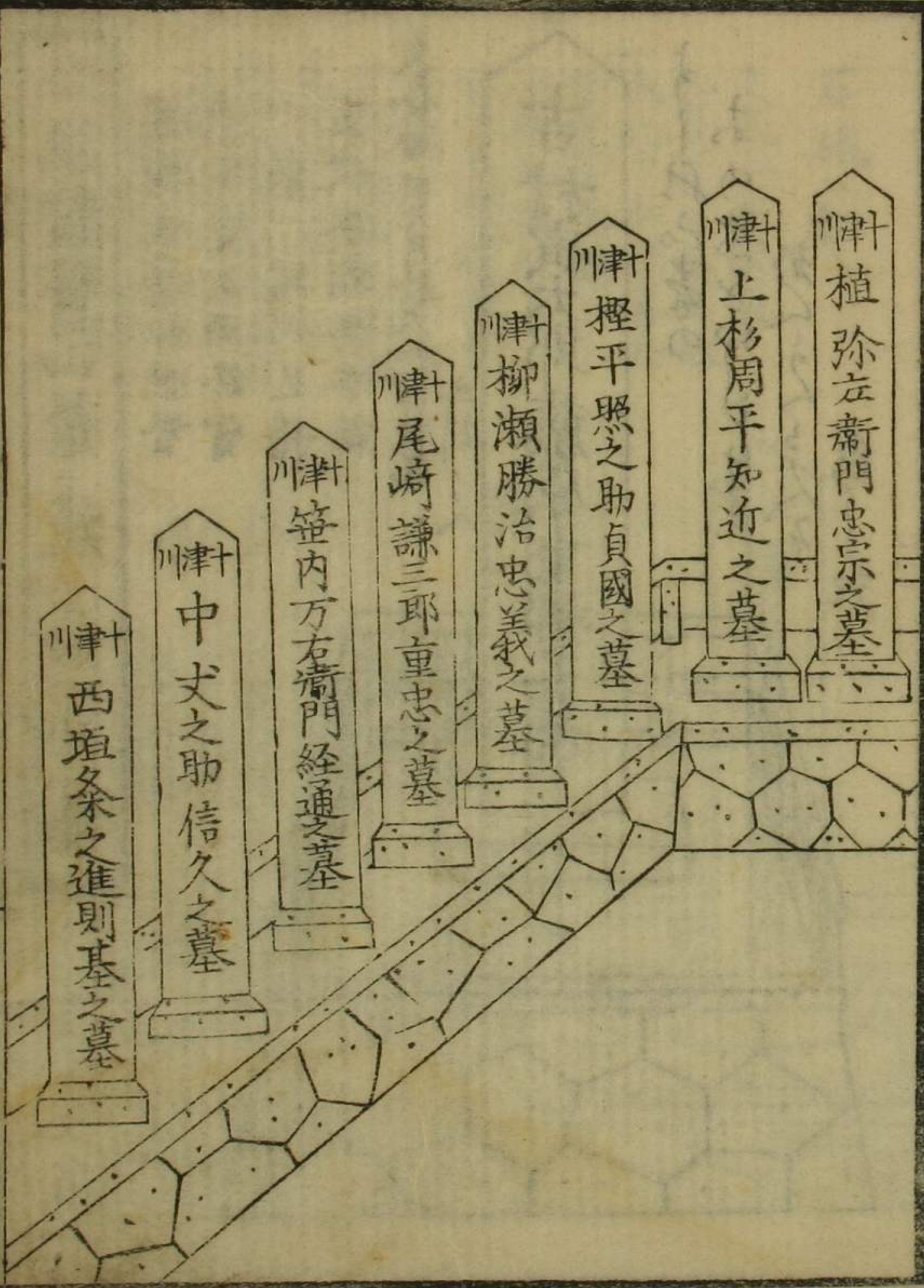
十月朔日於大坂亡

明暗寺省主堂正堂

元治元年甲子年
七月十九日於京師亡

明暗寺徒素行正墓





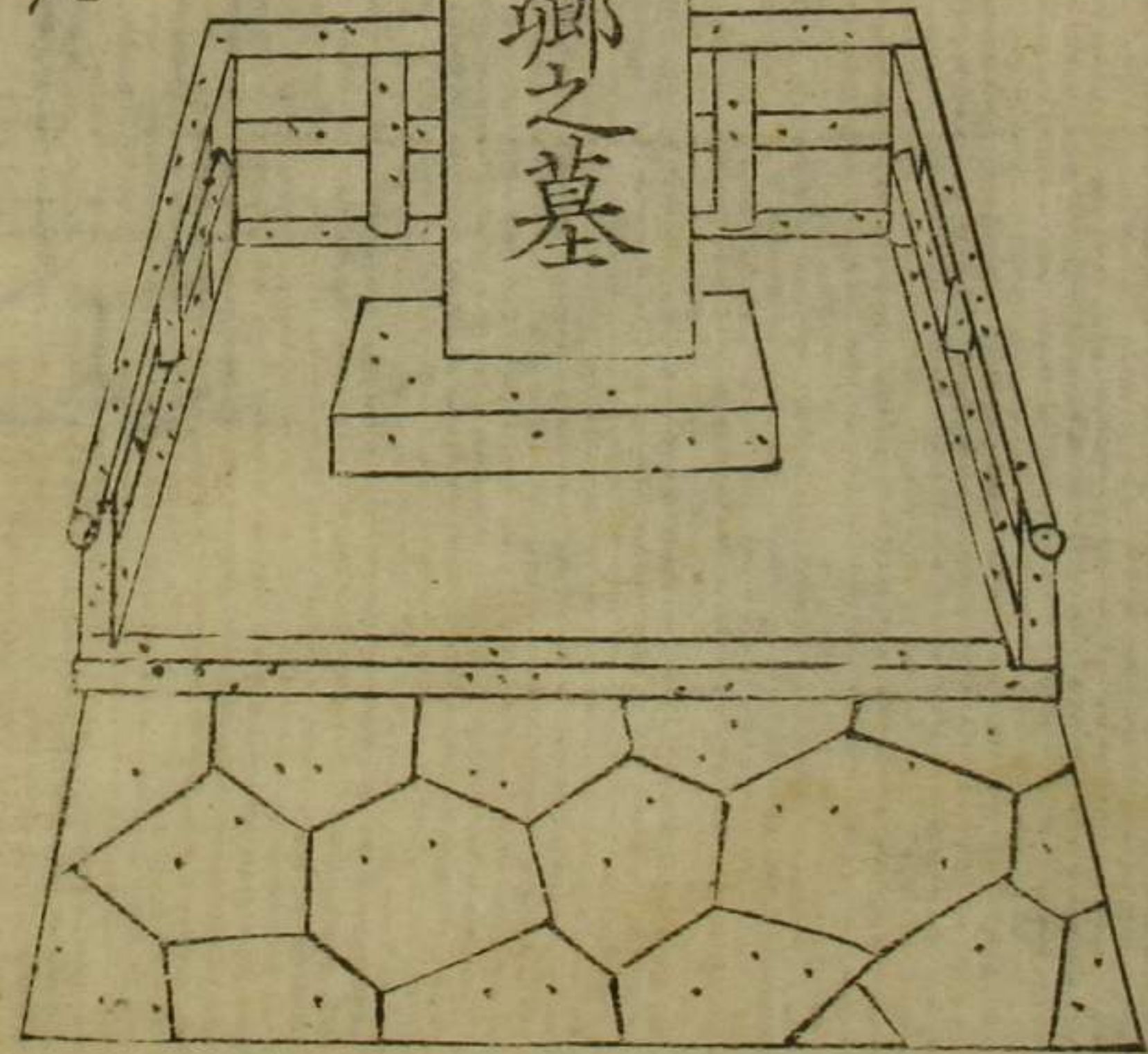
浴東靈就鳥山麓建 大和一奉ノ墓

櫻樹未開柳眼暫
決心呼友酒終宵
一家一同何足惜
宣使本朝為本朝

文久三癸亥九月於大和國戰死
土州ノ人

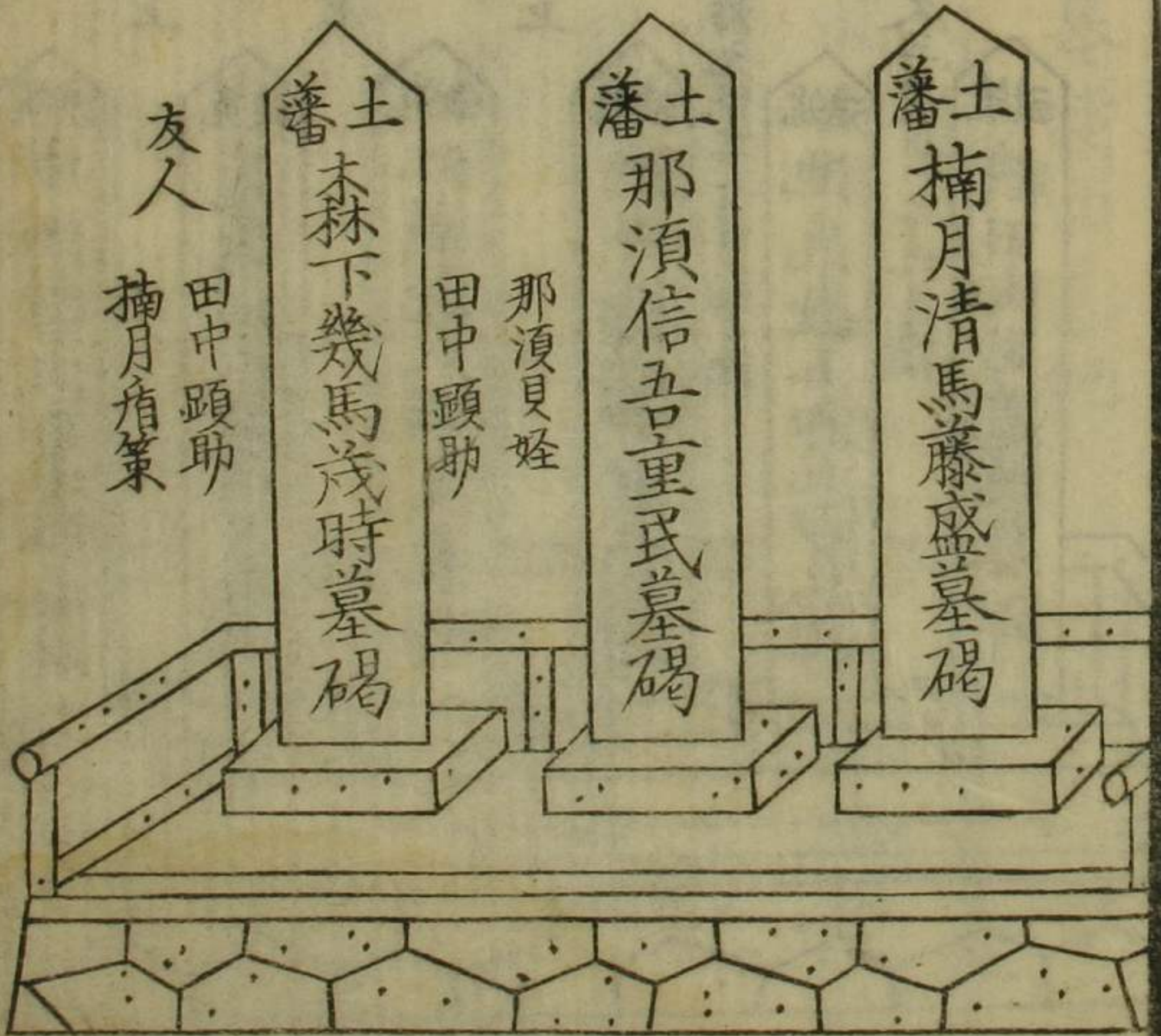
吉村寅太郎藤原重郷之墓

よーれ山峯の
木の葉をわびけり
たへんうらみ人そ
あつた



石碣二記ス

文久三年癸亥
九月廿五日以有故
戦死干和州幕兵
斬其首而贈
京師終假埋又
於洛西刑擅場今
幸得
官許改葬于洛東
鷲尾山者也
時慶應四年辰五月
廿四日
楠月某兄
楠月盾策



土藩楠月清馬藤盛墓碣

土藩那須信吾重氏墓碣

土藩木林下幾馬茂時墓碣

友人
田中頭助
楠月盾策

那須貞姪

田中頭助

文久三年癸亥死

筑中垣録太郎幸推墓碑

日上

筑荒卷年三郎真刀墓碑

日上

筑江頭種八國足墓碑

日上

筑酒井傳次郎重威墓碑

元治元甲子七月十九日死

筑池尻嶽五郎丘山墓碑

文久三癸亥年九月死

筑鶴田陶司道德墓碑

筑中垣録太郎

筑荒卷年三郎

筑江頭種八國

筑酒井傳次郎

筑池尻嶽五郎

筑鶴田陶司

道德

東福寺山我死墓墳由末記

四海困窮せも天縁長くおとんとと直にたつた

往昔文元の間小徳川列祖征夷の軍職辱ふ

して東武に覇府を弄き上

天朝を多し列藩を愛慮し下万民を撫育

し多ふ故救世慈悲を奉りて一室永承年中

少少りお夷の津し我

神妙の富國を志すひ交易を求んとす

後朝の文臣列國の徳候流儀を辱し

遠白有る付

朝裁小職掌おまはし給

勅を下し、今より幕使因緒し、今日お

まはさるる慶喜三年丁卯十月徳川内府建白曰

臣慶喜謹白

皇國時運之沿革を考む昔

王綱紐を解て相家権を執り保平の礼改擡武

門小移りてより祖宗に至り更に親眷を裁り

二百余年子孫相受其職を奉じたり今

政刑尚を失ふ莫く少今日之形勢を以りしる

年竟為徳と不致不塔慈懼の况や當今外

國之交際日々盛なる小より愈

朝権一途と出石中より細紀難立はる従来

旧習を改改擡

朝廷之奉時廣く天下に公儀を尽し

聖教を仰ぎ同心協力共々

皇國保護仕はる必海外万国と並立はる

要は百家之所及不遇を幸存はる去後見はる

義も有之り、下開方諸候にお逢ふ事は依之

此後謹白

奏聞仕は以上

十月十四日

臣慶長

右之上書有之由受

朝儀左に通宣 仰出

祖宗以来所委任所依頼乃在正以乃方今

守内之形勢を考案し建白を致す被

思食我同被

開食我於天下と云ふ同心尽力を致

皇國を維持一々奉安

宸襟所決所長

大夏併弁夷一糸を其底儀を仰儀大名

伺被

仰出有之

朝廷於後段に取扱自餘之儀に及ばず

候上 京之上 所決定可有之文上

受徳川支配地市中無編号此等之

色之追及 所決所長

十月十五日

右之上書仰出に付十月十二日夕方幕府

陪從有司を以て治部城へ送るに續

朝裁を奉納の由令津容保謀主とあり

新敵の勢より大雷の威多如く大々奮奮烈烈
戦して敵を討つに敢て不知申すも可笑し新撰
の浪士回冬より伏見表へ屯集しは一件之言
して列藩兵隊も成つた心地にて府をい
し一確を張り伏見表の家領知の如く振舞う
が官軍方の將先を何ぞ敵すべきことあり
碓易廢亡し隊長近友勇捨も射のどろあふ
碓易の如く何ふともかく逃去りて其の屬する
函統も大々行を消し退く已ら屯集場へ迎
し安藤等の如くして大砲一發に廢棄し

いかに地より一車どもんは竹を搦えたる大の
怒り極く之を甲斐なき者かをりて我よりその程を
敵よりせよ方武士小行渡せんと誓りつて新
をへ登りて自ら志先をけて大砲數十門搦
喚び叫びて進み来るに其處は深淵別心是
をらんて敵手の言に下知し其の純武士の
騎来るを何程の事かあるん流川へ切居し
の餌食おたせや若も進みやくと烈愛下知
お三浦孝之相木隆經守佐川忠次守河保部
山下貞政お余一騎南千の雲士我おしと

馬は今け大砲小砲の大砲の中をいともあ
たふゆを音ひ切出く敵を討つ恰も多を難
ふ石矢鶴印を渡りゆく皆のう間、敵を積て
山をたけ、腫血濁きて流川も忽ちおろす
るるあれがあふさず不敵の大軍もさかへ我一
と後八捕の力て敵を以てひか後及別路
三浦お木守流川五河山下おの常士を身合鉄
少あつこれハ多りの懐我に終不討死しむひるる
余の常士名執をを抑一先東福島の陣を
引揚るハ常士一かりたるるを在に相討死にの戦

ひハ屋敷勢と相敵方ハ奇合の大軍にて大
小砲の奇合多ハ流中へあき系地のは民今
や款勢犯入せんやと屋敷を臨りお地して
只怯と居たりるあふは名ハつこる
屋敷は勢おさハ多の若武者も進中んと
されハ入ましとするは挑に殺ふるさるる
べりともあつりる勢は本州勢入に守る村
良正平川我皆佐伯族とゆき常士流川
堤の麓系に埋伏なり款勢をきりすじ時を
ハよしと居一回不敵連て賊の援合切すべ

不意を討てて威を以て四方に馳せしめて強を
先より六薩に勢大浪のあつた如く進めるは海
に何勢極まるの如く切まる小威を以て七割を
八破小舟崩さし民衆に放火し煙をまきこれ
中々〜と流の方へと奔るなり海中に舟の人々
傍彼ら舟とあつたをのんで納まる未だ薩州の子
舟楫の勢を引く如く追々勝利の旗を以て進め
て薩生の如くをやりけるなり征討大將軍
宮 錦の郡旗を以て官兵を率ひて日
九の所 巖屋なり〜の如くなり八束守に御本陣

を居るひびきあり天子御所を以て流の方へと
進めしむ伏見に八の陣を以て薩生の如くは日
〜と流の方へと進軍かく進めしむ大軍に雲霧
華〜かを朔歌の熱軍大々恐怖〜流の大橋
少橋を以て居〜城下の要地と屯集はるなり又
八橋洞々啼巴〜八破舟井以て受ふあり〜と云
はし名神〜朝歌を陸路〜と云は候なり小陣
兵〜と軍を以て進めしむ〜大義失せ〜薩も
救ふのなきなりが 錦の市旗の風を以てひく〜や
否や忽ち吹送と云へ降伏と出るもあり又ハ

一云とあるは其救多かりしが新りて民家へ
押入唐氏を殺害し衣食金銀の多野かく
挿奪し一と暴悪あるもかく浅るしかり
々々次第ありて去程不助敵の軍物濠川播磨
味方の敗軍を惜く思ひ多るが味方三百多束
毘願漢代の面より上方へ寄合勢今一うびかり
かへしは和厚を要かん今中丹後一市
合先濠城の要害よりいかに能再戦せんとい
て下城下と放火をい城へ向せんといふ
城の周囲に候しは行中濠川の友助右衛

若小面合致し方中に入多る城門より松田典礼
在出何ものやんとあふ支那の田高橋を多か
のそは豫代毘鹿の長多きハ速に并城に候し
功勞を長きれしとあつたハ松田大に怒り豫代毘
鹿とハ私交し普天下王土とあつたとあるは
率土の侯と云と王位なりと云なり一高城微弱
なりといふも候し 帝勅と云く我少身より元
主人の名代として此城を執る何ぞや 天朝を背
く逆賊と云せんやと云放ち多れと云ぬハ強
擄病強候小及少支城仲より村田右久を尖出

也心盛を結山麓より棄て初 王の志一途
今も此死を耐え忍び

すしとてありし王の志士

くふをかたうと死すの山を

かくとぞささつと救多の款をちる敵群の働

一に敵部を戦死をせしむる山崎の園

つより名譽の言隊操中一火炮の操平楠

義の賊中へお出しくれはつと賊を死して

御の業ある友軍ハ破布の勢不款一人も踏

る力のなく有はれはせん礼一治を

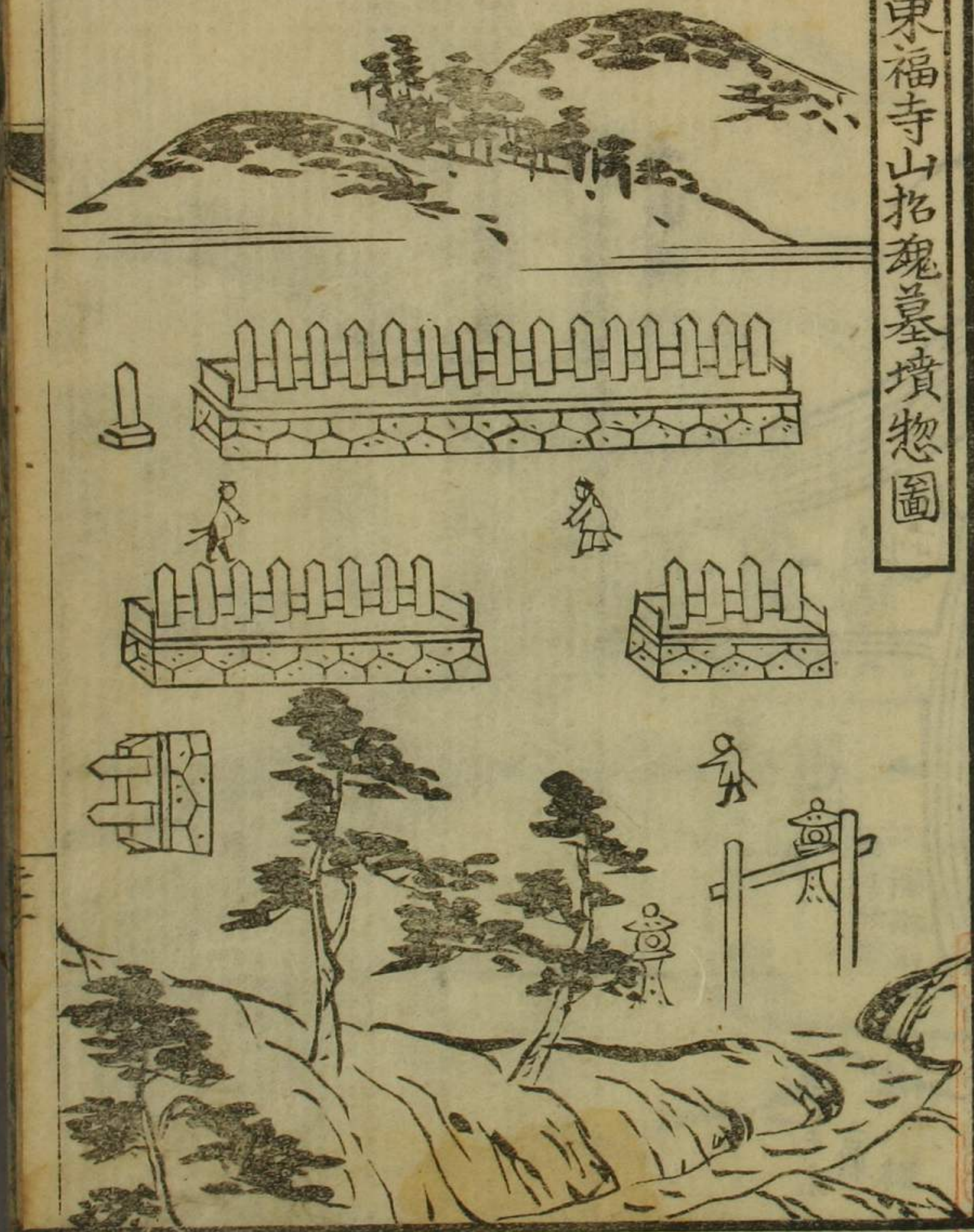
為ては初て友軍勢向ふと進む所も大
傍村を以て結山麓と押あつや久保
連右義房小林等が義光竹田次等が忠大坂
城一と棄業と名譽のつと志士あつてお入る
まうらんや款勢一人も不忠なコハつと不と
愛小飯小天地震動一深神も地へ入ぶとあ
つやとらんをら地雷火を中一表むア一志士
けあつと死しむひつり子と己あお款の徳
味方の敵軍をうとせむは惜くなく
浪津城ハ日本一の名城なせハ今一と備

今智方の心をすうんと思ふを内府云ハ
天威を思ふ多し子先を思ふ加田の侯は兼ね
し江州さして居多しと云は信物等大ニ
務もさる子再戦の義智もかくけよとて
城中に地雷火を仕懸置置し放火し候と
くさし一城の侯より申候さうち兼ね候とも
なく居去り候て官軍ハ名不存分傍村
を以大将軍官所方信物を奪く候きしひ
目出度所勢陣耗つききり板敷をさるも
釣廷よりハ子連兵火を奪く人民を憐愍し

多し既焼救万朝一朱絨野々く候り候き
孫 朝恩のほ仁恵を仰きさるを京師ハ勿
禱依ん候河東を介由の庶民始て安堵
の思ひをさし一邦代万歳を祝し候り

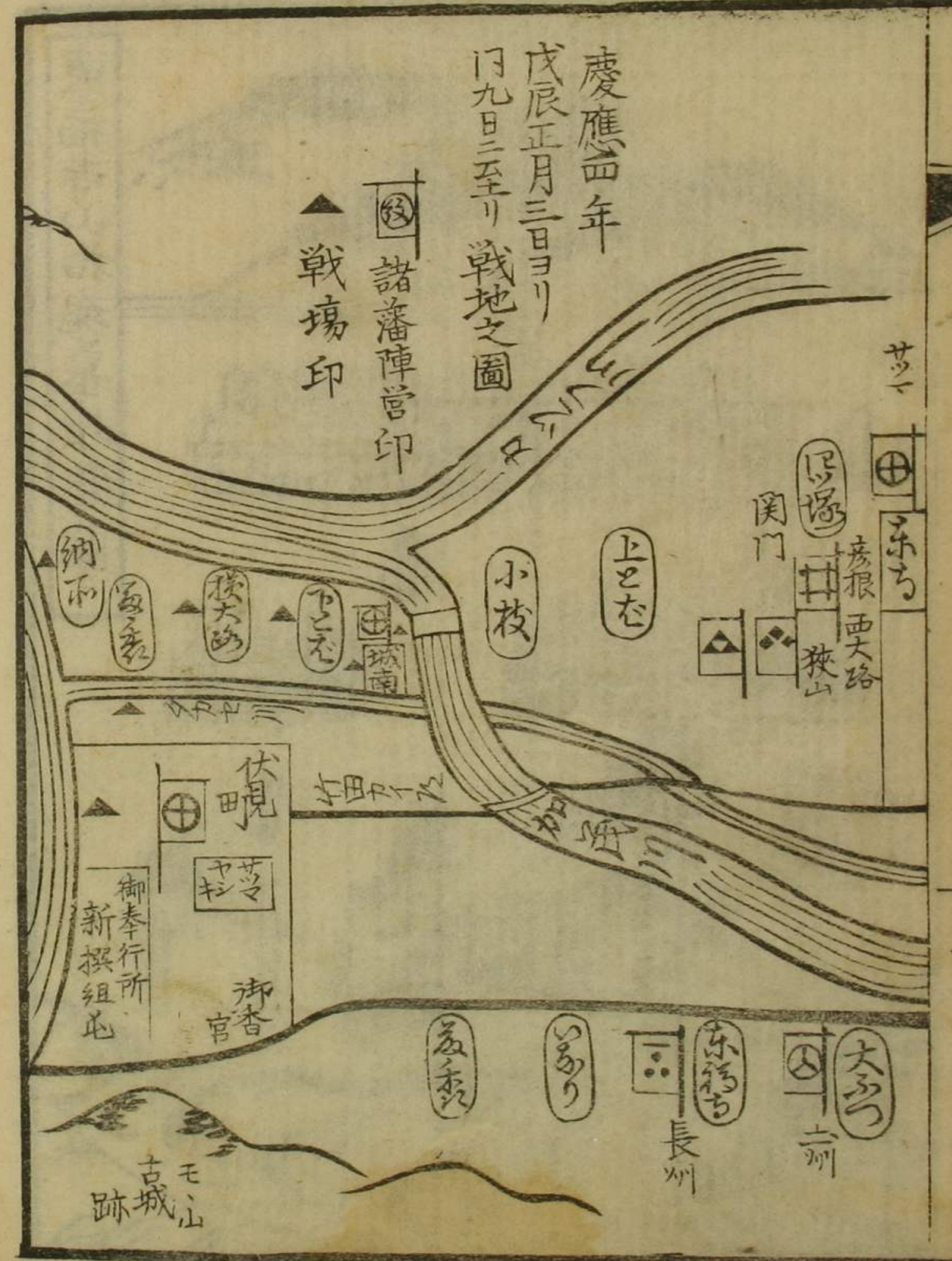
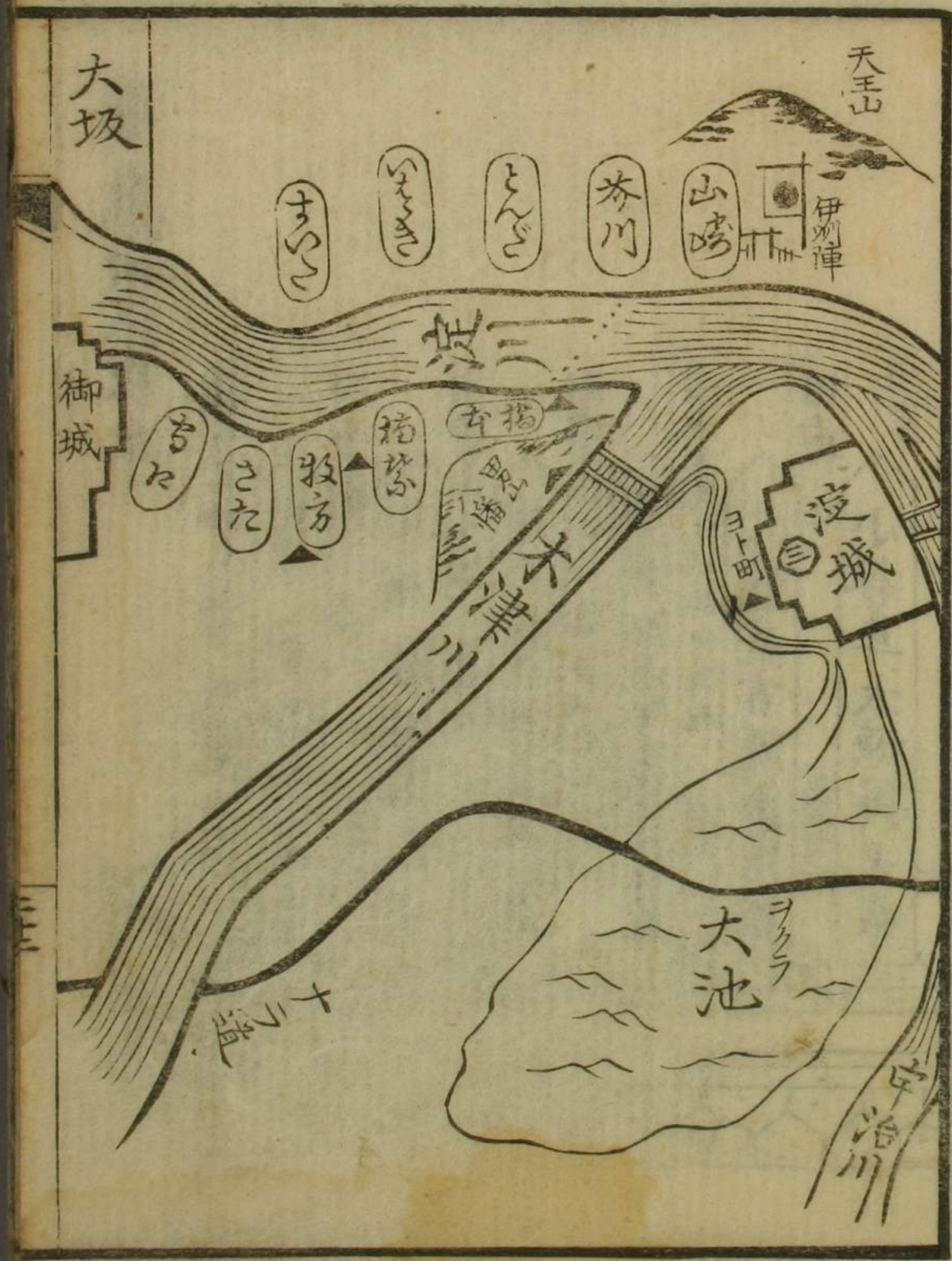
附曰わくの戦場より産産を始り信産勇戦
敵を許多れもけ出ハ安堵も山戦死由來の
記しして終るふあつうさねハ只戦死神志
の勇戦を揚りを要し候に終ハ勇戦
たき入ん人あやしきうかうのうら
五年夏之矣ハ衆人さねとも予一日東福寺

東福寺山招魂墓墳惣圖



山系おのちりく傍の志^し文^{ぶん}被^ひ依^いん^ん我^が争^{そう}
 大^{おほ}坂^{さか}とこの始^{はじめ}末^{すえ}たも^も詳^{しょう}し^しゆ^ゆり^りを^を使^{つか}ひ^ひら^らふ
 兼^{かね}る^る足^{あし}身^みの^の次^{つぎ}身^みよ^よ符^ふ合^あせ^せれ^れば^ばを^を糺^{ただ}ら^らふ
 を^を紙^しし^して^て紙^し中^{ちゆう}を^を括^{くわ}ふ^ふり^りぢ^ぢん^ん敷^敷る^る大^{おほ}人^{ひと}
 の^の多^{おほ}量^{りやう}し^しゆ^ゆり^りの^のあ^あら^らせ^せれ^れば^ば括^{くわ}ふ^ふる^る括^{くわ}ふ^ふる^る括^{くわ}ふ^ふる^る
 と^とい^いふ^ふ〜[〜]と^と人^{ひと}と

記者謹言



慶應四戊辰年

正月四日於高瀨川堤戰死 九七

斤山 金治 茂定 墓

日三日於伏見戰死 二五

三浦 龍輔 孝之 墓

日四日於高瀨川堤戰死 九三

尾川 猪三郎 直忠 墓

日六日於城列八幡列本邦戰死 九六

德山 藩 福嶋 男也 源正盛 墓

日十日於大坂城中即死 二七

久保 直吉 源義房 墓

日前

小林 隼 太源 義光 墓

日前

竹田 次郎 藤原 常忠 墓

日三日戰於伏見 百廿死 九三

原田 糸之進 義周 墓

日 日於伏見戰死 九五

相木 岡四郎 師繼 墓

日前

宇佐 川 熊三平 忠次 墓

日前

後藤 深藏 藤原 則正 墓

日前 四日

原川 金藏 源保 邦 墓

日前 日

山下 羽平 藤原 貞政 墓

日四日於鳥羽戰還死 九二文

入江隼人源重忠墓

日前

河村梅吉多々羅正良墓

日前

品川喜市源義皆墓

植田瀧之助清信墓

日五日於淀戰死

三十九文

黑瀨千代太郎藤原賴近墓

日前

五十五文

河上四郎源道正墓

日前

六十五文

松原善人源義明墓

十九文

日前

伊藤藤京次播磨奇墓

日五日於渡邊戰死

九十六文

石川厚狹助正臣墓

日前

六十二文

十川三郎大江良久墓

日六日死

九十四文

吉田順之助源義久墓

日十日死

二十二文

上山讚五郎源忠之墓

日八日死

三十七文

岡崎高捷藤原守正墓

正月六日運糧於八幡戰場
為銃丸所死行年十九文

岩國新藤小者
万藏墓

月六日八幡役被創三月雷
 於周防山口死年三十四
 月三日伏見役被創四月雷
 於周防山口死年三十三
 月三日伏見役被創三月十日
 於周防三田尻死年三十九
 月五日浪堤役被創四月廿日
 於周防山口死年三十三

平野光三郎平忠國招魂之碣

田代三之丞義孝招魂之碣

宮田半四郎源師久招魂之碣

原川助右衛門安則招魂之碣

盧原田守

巖佐三郎重敏之墓

小須賀逸衛源知良招魂之碣

美香房之進正義招魂之碣

十川彦四郎義彰招魂之碣

大村清次郎義忠墓

佐伯鉄之助墓

石川和三郎勝久墓

入江勝馬一義墓

月前

月五日於渡戰月九日死 九三

月六日死 十九

正月五日於渡戰二月四日死 九六

月四日於身羽戰還元日死 二十

門前

有田彦兵衛忠老墓

九三九

門前

戸澤竹治郎政勝墓

九九七

門五日後漫被創買吉

石川伊三郎義忠墓

九九七

門日於漫戰死

藤村美次郎足總舎稔彦墓

九一七

南向二建

別能仁三郎源義勝招魂之碣

小遣好兵衛招魂之碣

續隱玖免岐集 早

隱玖免岐集

初篇 二篇 刻成

同三篇 近刻

此は八かゝりて... 後... 必... 必... 必...

大坂書林

心斎橋通塩町角 綿屋喜兵衛

門 通北久堂寺町

河内屋源七郎

三条柳馬場角

京都書林

堺屋仁兵衛

寺町通松原下

菊屋喜兵衛 板元

